

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 にじ色/グループホームひまわりヒルズ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに貼り出しいつでも目につくことで自己を振り返れるようにしている。また、個人で自分の今できること、していきたいこと、目標を立て少しずつでも理念に向かって進歩できるようにしていく。	職員の目に付きやすい居間の壁に法人理念の「八つの心」を掲示している。入居者はもちろん、職員間や電話対応、訪問者などへの言葉遣いに気をつけ、入居者が安心して過ごせる場にしたいと職員は話している。	開所2年を迎え「八つの心」に沿ったホームならではの目標等を話し合われ、理念の具現化にさらに努められる事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、地域の方との交流は行ってない。近所のスーパーに職員と一緒に買い物に行ったりしている。	町内会長が法人理事として、運営推進会議にも参加されている。ホーム外苑の散歩時、手を振る園児の可愛い姿に入居者は笑顔で応えるなど、入居者の楽しみとなっている。近隣の方々と避難訓練など企画できる日を待ち望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、新型コロナウイルス感染予防のため、地域の活動には参加出来ていない。新型コロナウイルスが落ち着いてきたら少しずつ関わっていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染が一旦落ち着いていた時に運営推進会議を実施した。今後も、新型コロナウイルスの感染状況をみながら実施していく。	昨年11月の会議には、家族6名や民生委員などの地域代表や地域包括支援センター職員の参加があった。ヒヤリハットや行事を報告し、自己紹介やホーム便りの写真について等、活発な意見があり、議事録はエレベータールームで公表している。次回は3月開催を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	本庁の担当者の方や小倉南区地域包括センターの方に電話にて相談して行うようにしている。	不明な点や相談は逐一行っており、事故報告に関するアドバイスを受けている。入居の問い合わせの連絡があり、待機中の方も居る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	特養の身体拘束廃止委員会に毎月参加している。施設内で研修を行い、常に身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。	各ユニットの職員が法人の身体拘束廃止委員会に所属し、委員会や研修を開催している。「帰りたい」には、ユニット間や隣接する特養を歩き来して貰ったり、娘さんから電話で「明日迎えに来る」との話で「今夜は泊る」となっている。家族の了承を得てセンサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は、特養の身体拘束委員会で勉強している。施設内で研修を行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今、権利擁護制度を利用している入居者はいないが、必要に応じて対応できるように研修に参加し学習したり、パンフレットなどを準備し説明できるようにしている。	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はない。資料は整備しているが、制度の違いや内容の理解のためオンライン研修などを検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を中心に分かりやすい言葉で説明し理解、納得して頂けるようにしている。改定事項などは文書を作成、通達した上で説明も行い納得して頂くように徹底している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルスの感染予防を行いながら、家族会を実施した。今後も感染状況を見ながら実施していく。	家族会や運営推進会議に出席された家族の担当者から入居者の様子を聞きたいや通信の写真の顔が小さいなどの意見で、担当者との連絡を可能にしたり、拡大した写真を通信に掲載している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や申し送りノートなどを利用して職員の話を聞くよう努めている。	月1回、日勤時間帯にユニット会議を行っている。業務の改善や分担など話し合い、細かいことは随時管理者に個別に相談している。乾燥機等の必要な物品は予算内で購入し、当初躊躇する声もあったが、IPパット導入は記録時間の短縮に一役かっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を設けて、管理者またはユニットリーダーが施設基準に従い評価して環境整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用には、人権侵害とならないように配慮を行っており、職員間に対してもグループホームの職員だけではなく特養の職員との交流などをレクリエーションなどを通じて行うようにしている。	施設内の特養やユニット間の異動があるが、法人全体の採用で夜勤専従者も含め40代から60代の男女の職員が知人の紹介等で勤務している。希望休が叶い、昼休みが休憩室で取れて時間通りに帰宅できる。昨年、介護福祉士国家試験に2名が合格している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設で行われる研修に参加して啓発に取り組んでいる。	運営規程に人権擁護や虐待防止措置等を詳細に明記し、内部研修で虐待防止に関する研修を開催している。言葉遣いなどは、管理者がその都度注意し、Web研修で人権教育をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・施設内研修や委員会への参加を促し個々のレベルを上げられるように、声掛けをおこなっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在は、コロナ禍であり外部との交流はおこなえていないが、コロナウィルスが落ち着き訪問など出来るようになれば、交流を行っていきたいと思います。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に寄り添い話を傾聴することで信頼関係を構築している。また、訴えが多い方の話を傾聴し、安心してもらえるよう支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時や事前面談でご家族が何に困り、どうして欲しいのかなど意見を十分に伺う。その上で、入居者を中心に支援計画に反映している。専門職としての意見や今までの事例をもとに応えることで不安を軽減できている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細かなアセスメント、面談を行い、ご本人とご家族の意向を掘り下げ必要としているサービスの提供ができるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、洗濯物をたたんだり、食事の副食を小鉢に入れてもらったりしてもらっている。「何かしようか」「何でも、手伝うよ」など声が上がリ、大変助かっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、新型コロナウイルス感染予防のため、ご本人とご家族で共に行うことはしていません。ご家族の方は生活の状態が見られないので電話連絡したり、新聞を作成し郵送や面会等で説明し、普段の状態を把握してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、新型コロナウイルス感染予防のため、馴染みの方の面会は行っていない。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたら少しずつ行っていく。	ユニット前のエレベーターホールや玄関の面会コーナーで面会をお願いし、受診支援も家族との面会の機会としている。1階の理美容室は馴染みの場所となり、職員同伴で馴染みのスーパーへ出かける入居者もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、ほとんどの方がフロアで過ごされている。何人かの方、居室で読書をしたり、部屋の片づけをしたりされ、ご自分の時間も大切にしている。フロアで体操する際は「今から体操をするみたいよ。」と入居者同士で声を掛け合っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されたかたにはその後も電話で連絡したりご家族に転院後の相談にも関わっている。今後も継続して助言やアドバイスをやっていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気付いたことなどあれば、職員間で話し合ったり、申し送るようにしている。内容によってはご家族に相談、協力して頂くようにしている。	日々の援助の中で気付いた入居者の意向や思いを職員間で共有している。丁寧な声かけや傾聴に努め、家に帰りたいたい思いも「歩き回って疲れたから今日は泊めてもらおう」になり、特定の職員だけではなく、他の職員にも思いを話す入居者も多くなっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の機会を多く持ちご本人の歴史を探るとともに、以前利用されていた事業所などの方からの話を聞いたりした。ご家族からは写真やアルバムを見ながら昔の話を伺っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の出来ることに視点をおき、その方に合ったケア内容を検討し、環境作りや支援を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意見や要望は面会時などに引き出しケアプランに反映し作成している。	昨年4月からパットで記録やモニタリングを行い、実際の援助に反映できる介護計画の作成に努めている。機能低下させないように見守りで転倒を予防し、動きたいとの本人の思いを叶え、入居者のレベルや志向に合わせ、物づくりや洗濯物量み、畑作り等を実践している。	アセスメント結果を印字の色を変えたりより具体的に記載する等の工夫で、さらに現状に即した介護計画を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、食事量などに関してはチェックシートにその都度記録している。気づきや特記事項などは介護記録(ケース)に記入している。また、申し送りノートを使用し情報の共有を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて受診の付き添いなどを行っている。また、必要な日用品などをご家族に代わり(遠方な方)買い物に行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、地域の方との交流や地域資源の利用は行っていない。今後は、感染状況が落ち着いたら行っていく。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携は図れている。また、専門医による内服調整や治療を受けるための支援を行っている。	月2回協力医療機関から訪問診療を受け、毎週土曜の特養診療日にも何かあれば医師の来訪がある。医務室に看護師が常駐し、必要時にはいつでも援助やアドバイスを受けられるなど、円滑な医療連携を構築している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は特養の看護師が兼務してくれている。また、何かある時は看護に内線することで診に来てくれる。また、夜間も特養で看護師が駐屯しているので診に来てもらえている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されてからも状態を把握するため、電話連絡し、今までの生活に戻れるように病院関係者と情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時に重度化や終末期についての説明は重要事項説明書に沿って説明している。殆どのご家族は「まだ、わからない」との意見が多かった。今後は、主治医、看護師と連携を図り、チームで取り組んでいく。	毎年実施しているアンケートで、重度化や看取りに関する意向を伺い、救急時、病院への搬送を希望される入居者は色分けしている。ホームでの看取りを希望されていた方は、常時の喀痰吸引が必要になり、入院後逝去された。今後、看取り委員を中心に研修などに取り組んでいく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に関してはマニュアルを作成している。今後は、職員が対応できるように定期的に勉強会を実施していく。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の避難訓練を行なっている。新型コロナウイルス感染予防のため、地域の方の参加は出来ていない。今後、感染状況が落ち着いて来たら、地域の方にも参加してもらえるよう協力体制ができるようにしていく。	年2回法人全体で、通報や初期消火訓練を行い、避難通路を確認している。ユニットごとに水や衛生用品の備蓄があり、食料などの備蓄は一括して管理部門で賞味期限などを管理している。感染予防対策を講じ、事業継続計画の作成に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩なので言葉遣いに注意し、声掛けを行っている。	比較的介護度が軽度の方が多く、コミュニケーションを図りながら、言葉遣いなどに一層気を付けている。畑仕事や花の水やり、配膳の手伝いなどには、感謝の言葉で労っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で話を傾聴することでご本人が安心して意見が言える環境を整えていく。また、ご家族からの意見も反映されるようにしていく。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務に追われないようにできるだけ入居者と一緒に行うようにしていく。また、「できる」ことを行うことで自信に繋がるよう支援する。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や病院受診時に女性は、帽子をかぶったり、口紅を塗ったりされ、外出用の服に着替えて外出したりされている。男性の入居者も「ちょっと待って。これを着てくるから。」と言われ着替えて来られる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房で調理され、ユニットにて入居者と共におかずなどをよそっている。ご本人の好みもあり、食パン、ゴマ、チーズ、鮭フライク、納豆、梅干しなど、ご家庭で食事していた食べ物を食べてもらっている。	胃瘻を造設され、経管栄養の入居者もあり、ムース食や刻みなど入居者に応じた形態の食事を提供している。畑で取れた芋をユニットで天ぷらにしたり、誕生日会のケーキづくりやお好み焼きパーティ等、食事を楽めるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士によるメニューで栄養バランスのとれた食事を提供している。食事量、水分量はチェック表により把握し、管理している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず、口腔ケアを実施している。口腔ケアは必ず洗面所で行い、出来る方はご自分でしてもらおう。磨き残しがないかを職員がチェックしている。また、訪問歯科と連携を図り、その方に合った口腔ケアを提供している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を見て時間がある方は、声掛けてトイレへ誘導している。また、早めに声掛けてトイレに誘導することで不快感がないようにしている。また、個々の排泄サインも見逃さないようにしており、職員間で情報を共有している。	尿意、便意はあるが、時間毎にトイレに誘導したり、「トイレに行きたい」と手で職員を呼ぶオムツ着用の入居者も多い。車椅子移動の介助や場所がわからないなど、個々の心身の状況に応じて、トイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量も日々チェックし、なるべく自然排便に繋がるように心掛けている。また、服薬コントロールが必要な方は、看護師と相談し早めの対応を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は個別にゆっくりと楽しんで頂いている。曜日などはある程度決まっているが、前日、入浴拒否、体調不良などがあつた時は、翌日に入浴してもらっている。	週2回を目処に、個浴槽や浴槽に浸かれない方には座浴槽での入浴を支援している。入浴を拒否される際には、別の時間や娘さんが「お風呂に入って」と電話で話していたなどの声掛けで入浴される方もいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔で心地よく休んで頂けるように空調の調節、毎朝のベッドメイキング、毎週のリネン交換で環境を整えている。また、ご自分で部屋の模様替えをされる方もされる。夜間は巡視により安全で安心して休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護師に相談し、指示を受けることで状態や症状にあった服薬ができています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑を耕したり、プランターの花に水をあげたり、洗濯物をたたんでもらったり、役割を持って生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防を行いながら「これを買に行きたい。」と言われた時に曜日を決めて職員と一緒に買い物に行ったりしている。	昨今の状況から、3が日を避けて初詣でに出かけている。日頃は敷地内の畑の世話をしたり、ホームが開所している4階は自由に行き来している。3月には花見を計画している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している方は数名いるが、お金がないと落ち着かないため少額の金額をもってもらっている。「財布はどこに行った。」と言われることが多いが少額をご自分で管理してもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話を所持している方もいて直接、ご家族に電話したりされている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔、安全を第一に常に整理されている。ユニット内は季節に合わせた制作物を掲示し季節感を出している。	4階のエレベーターホールを中心に、ホームと特養のユニットが開所している。オゾン発生器で脱臭や感染予防対策をした快適な環境で、入居者は特養と各ユニットを自由に行き来している。職員と共同制作の兎の置物と豆まきのちぎり絵が来訪者を出迎え、畳敷きの小部屋はお雛様が飾られ、明るい居間の椅子で寛ぐ入居者の姿がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットには大きなソファがあり、ゆったりとくつろげるようになっている。共有空間ではご自分の指定の席が決まっている方がいたり、ソファにかけている方がいたりと思いい思いに過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は様々で、使いなれた家具を持ち込む方、新しく購入された方がいるがどのお部屋もご本人やご家族が好んで選ばれたものがそろっている。安全に配慮した家具の配置を提案している。	共用空間を囲んで居室が配置され、全ての居室が外側に面して明るい。居室は携帯画面での確認であったが、使い慣れた家具や仏壇、パソコン等が持ち込まれ、壁面に家族写真や作品を掲示し、居心地よい居室づくりが伺えた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は不要な物を置かず、全面に手すりを付け、安全に移動できるようにしている。トイレは分かりやすいように表示している。移動空間を広く取りシルバーカーや歩行器移動も速やかに出来るようにしている。		